此下ひらけいとうの物くさ
ろかの物くさうなりあり
なり御一言ものまうとうなり
ものしりあり古中なり
て長れいは貴家の神
よりなりて造言の次
ひと外記よりあり
申しく帰り作光源
は此物よりて
ひ弥くよりて
遠院をあらく

内閣文庫
尊経閣文庫
東京帝国大学図書之印

天皇
朱雀院
村上
冷泉院
圓融院
一條院
後朱雀院
後一條院
後冷泉院
三條院
小一條院

汐敬書酔

一淳和院長源氏物語作之寛弘　長徳元年寛弘初年

孫光　兼行右大将時右大臣

孫河殿　此物語より採用　園融院内裏の御女御也

師輔　右大臣九条殿　伊尹

功臣

兼通　太政大臣堀川殿

父堤中納言　都京寺　為時

兼家　道長

源氏物語　作者

紫式部

左衛門督　宣孝　嫁大弐三位生　紫式部

一此物語源氏物語の面影ハ多分冷泉院

ゆゑ似利　又ハ法皇或ハ宮内卿門院ゆゑ王位

法とゆゑ紫式部　紫式部の作物語

いく源時の参ゆゑ　さゆゑ

さゆゑ　女房ゆゑ

ゆゑ　ゆゑ

ゆゑ　ゆゑ

ゆゑ　

一井上の川せより　長の巳井上の川せより人家一の
やうに成て　源氏にて上の方に面影く
一仏寺　同寺
一源氏宮　長の山ゝ　源氏大臣の上の先帝の御門の道
所宮にて御門の御方の後方の文法にて
長の御門なく
中納言　源氏宮所宮
一ひ中将　二人の宮女へく
一宮　後一条院く
一右の大臣　紀宮く御門の長の長の
一左の中将　一度の中納言　此河にて　宮帰

まの川せの長の山の方の山の中はせ
一ちの御門　山の方の長の中はせ
ゝちの御門
一ちの人　中納言
一ゝの長の人の中　ちの御門　山の方の
独ゝく
一ゝの御門　命の長ゝの御門の御門
ゝの御門やゝの御門中ゝの長ゝ
一の長の御門　ゝの御門ゝ
一ゝの八幡　引寺　東勤　ゝの長の
一ゝの人の御門　ゝの長の人の長の

二尼公利姉妹兄弟の人々[illegible]
婦なりしとぞ
一かの後　母堂[illegible]
一いまの[illegible]　[illegible]の北へ[illegible]
一右院の御ゆいん　此堂[illegible]
[illegible]
一故先帝の[illegible]　[illegible]の[illegible]
一洞院　[illegible]　後[illegible]
一十[illegible]門　先帝御[illegible]
一今[illegible]　[illegible]院[illegible]
一かの[illegible]　[illegible]

[illegible]
[illegible]
一[illegible]　三千[illegible]題切　首大通[illegible]
[illegible]
後[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一世間の物は思ひ捨てゝ世をのがれ
くかれ行くこゝろあるべきなり
事なり

一かゝる　ゝゝゝゝ

一ちゝはゝ　ゝゝゝゝ

[illegible]

一九とうの　悪ひく　独山　[illegible]

[illegible]

一吉のより[illegible]

一大かく　[illegible]

[illegible]

一[illegible]

一十市乃里　[illegible]

一[illegible]　菖蒲[illegible]

[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一扇を留　扇[illegible]

[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一心ゝ利根ゝ[illegible]

一ゝゝ人紙　源氏ゝ此行ゝ[illegible]

[illegible]

一ゝゝの事　[illegible]

一ゝゝは[illegible]

[illegible]

一紙ゝゝ[illegible]

一ゝゝ事　[illegible]

一たゝゝの女[illegible]　[illegible]

[illegible]

一ゝゝ事　[illegible]

一ゝゝ[illegible]

一ゝゝ[illegible]

一ゝゝ

一うちはのうち　右ハ所参門と馬石よりあたりまで
せんようてん（乃ち一ようく）
一安（今ハくまて出てしまいせさりしく
一中宮乃所ハ中ハ西ハ弱ハ山ハ清門乃
ようく所ハつひ所ハ馬石より所方風とよりあ等
みかとまて所ハく所朝ハ参まわりてよりんと暑
所ハ出ハ馬石せまハ暗ハ出ハかんと
一仏ハ　暑ハ
一ようん　云
一ようん　浮線綾
一内ハ　節今ハまわハ西中乃所ハ
一大おく　南宮指中ハ中ハ宮ハ一乃六ハ中ハ宮ハ
けく中ハまよりひておこと主ハ毎ハ人
、ようの大まく
一たハ宮中ハ所中ハ宮おハ　たちおなる　所主ハく
一ようひうえんハ　合参乃ハ　宮鑑敬　独くの勅宮く
一中勅宮　おわ　紀徽敬ハ主ハおハ主ハ乃ハ人ハ所主乃所
主ハ乃所ハ
一中ハ主ハ　ハハ主ハ乃ハ所主
独ハいく　横面くまひ活くあく
一ようひ　今ハひく主ハ映活ハ勅宮く
いよりくうの　此勅宮ハ主ハ人ハ馬石主ハ

[illegible]

一こと人〳〵も　さゝの[illegible]笛より琴を[illegible]
[illegible]ゝとかなせて[illegible]ゝりよさゝ琴を[illegible]
[illegible]笛をさゝ[illegible]ゝの勅宣く
一かゝとさゝまゝは　甲斐の心笛ゝ[illegible]
[illegible]物をゝて[illegible]
一さゝく　笛とかゝゝかなせゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
一いとゝゝ　廣ゝをゝりしゝく[illegible]の笛
[illegible]ゝ[illegible]ゝの勅ゝく

一皇后　法藤院皇后宮さゝ帝の御妻く
一かゝゝの　いまゝしかゝん甲斐の心御神はゝ[illegible]
一ゝ　ゝゝく　此情のゝうひ[illegible]
一いるつゝの　雷電せんとかゝ[illegible]音樂宮ゝこゝゆゝく
一あゝく　俗ゝあゝむとゝり源氏よゝもあゝり
一いゝかゝまの　さゝの手ゝの[illegible]合奏あゝん
[illegible]

一いとゝゝ　日新ゝいゝゝゝゝゝ[illegible]
一ゝ[illegible]ゝ　ゝゝゝゝゝゝゝゝ[illegible]
一かゝゝく　さゝの此世をゝゝゝく[illegible]御門父
[illegible]

一雪いて　雪輿　丁ゟ

一雪ふく　御門内ゟ此世ゟ長内ゟ人半ゟ出迎

一二度ハ　御院中ゟ二度御門内石ゟ

内ゟ長ゟ下ゟ内ゟ長ゟ思召ゟ

氏宮ゟ内ゟ給ひ　ゟ内ゟ

内ゟ世ゟ長ゟ利ゟ

ゟ世給ひ　奏ゟ此ゟ頼ゟ御誕生ゟ

給ひ　ゟ世ゟ内ゟ病ゟ御

御ゟ給ふ

一石ゟ此宮　女二宮ゟ此宮ゟ長ゟ

内ゟ御ゟ

一ゟ長ゟハ　御門長ゟ長内ゟ迎ゟ給ひ

ゟ内ゟ内ゟ内ゟ

御ゟ人　ゟ長ゟ給ゟ

ゟ内ゟ宮ゟ内ゟ給ゟ

一ハ　御門ゟ御ゟ内ゟ

一ゟ内ゟ　引ゟ事動

一屋ゟ内ゟ　此ゟ内ゟ

一ゟ内ゟ内ゟ長ゟ出給ゟ

一ゟ内ゟ　ゟ内ゟ思ゟ出ゟ御前へ

ゟ給ゟ内ゟ内ゟ

ゟ内ゟ　給ゟ

一つゝ御ぬきとゝまつぶは[illegible]
と思ひしとき
一いつよ　唯御一男とき　[illegible]むわりいて
一ほくらん[illegible]
一甲ね　[illegible]
一[illegible]
一さやと世の御事[illegible]
[illegible]
一[illegible]
[illegible]
[illegible]

一[illegible]　市の[illegible]
一[illegible]
一、一つ巻　[illegible]
一[illegible]
石[illegible]
一御[illegible]
[illegible]
一[illegible]
一家ぼう　家[illegible]
一御[illegible]
[illegible]

一天竺にて世尊の御ゆいぶつ法花経を時利
[illegible]
[illegible]
一[illegible]
一[illegible]
一[illegible]
一[illegible]
一[illegible]
一[illegible]
一[illegible]
一[illegible]

一[illegible]
一[illegible]
一[illegible]
一[illegible]
一[illegible]
一[illegible]
一[illegible]

一[illegible]利　[illegible]師川[illegible]
[illegible]

一[illegible]　[illegible]
一君[illegible]　[illegible]長の御[illegible]
一[illegible]　[illegible]
一[illegible]　[illegible]
一[illegible]　[illegible]長の[illegible]
一[illegible]　[illegible]
一[illegible]　[illegible]
一[illegible]　[illegible]
一[illegible]　[illegible]
一[illegible]　[illegible]
一[illegible]　[illegible]

[illegible]
一[illegible]　[illegible]
一[illegible]　[illegible]
一[illegible]　[illegible]
一[illegible]　[illegible]
一[illegible]　[illegible]
一[illegible]　

[illegible]

一ひとり有るは　月読殿の方へ参り来たる

一八月十五夜　御家さ　留の御殿女房の者

一[illegible]　女二宮の方へ参り給へ

一[illegible]　[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一

一せんこうの事　世の中のあらましをうかがいたてまつる

[illegible]

一ひとつとぬすみしこと　[illegible]

[illegible]

一こうせい　いつせいの[illegible]

[illegible]

一[illegible]　世の[illegible]物[illegible]

[illegible]

一[illegible]　世の[illegible]

[illegible]

一[illegible]　世の[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

一

一日くすり　五臓六腑を和し気血を益す
一甲乙丙丁の表は源氏家の方ちよう利益の時の効験あるなり似たりやと思ひわすれ給へと似たりともたりともあかねこまつるく　四方にてあらはす
一五臓六腑を和し益す　はたては人の為の薬
一三焦利ちう　表暑気より利益あるく
一ふちう　五臓の御用の男ひるはへてうと
　　ちうとく
一物思へば沢の蛍も我が身から　いとせばいうを
一源氏の家　五臓の御用の男
一ちうす　五物のはたらき此物はたらきて
一八のちうと　甲乙丙丁と毒よりは利益の毒は物へ
一ちうぬ　甲すちう物はたらきしわりかたの毒のみ
　　ひはたらく　いとせ利益の山路の山ちかくと
　　人ちうと人
一ちうちうちう

一二条大宮　二条寺殿御所　[illegible]

[illegible]

一つゝゝ　侍人　[illegible]

一ゝ　[illegible]

一三ゝ[illegible]　[illegible]

一法師　[illegible]

[illegible]

一御所　[illegible]

[illegible]

一君　[illegible]

[illegible]

一ゝ　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

かりそめにくち物にくちをしく
一ふていくとしをのりとひ給へと
申さるれくるしてよさをのりかなせてとく
一いまて　宮乃人の河くそてをあけさせ
くちをしをの御法して
一四心はてや思乃ちうはけるをてはなし宮
よ御心とまるとく
一物かたり　あをの年乃はけ師　よ思てをてをしは
とををのつくかくるはし
一大殿乃ま　ま人乃車よりへをを思
ををくをを　をの河くちをくと云く
一車　ををの御心申くをつを物せとく
一ふてや　はけ師　よりをくをんと思く
一ふりはけ師　よりひかをまつるをり
一とををををの乃ちをををををををある
河乃をの心く　あをの年乃ちををひのをを者をををを
人はををるをと早下乃思　物乃やりとく
一ちををけ　新もらの心合ち
一あをの年乃をを　新ををてやをひ者ぬくをけ師ら
くををををやをんとく
一車をり　ををををををの河くをて車をり
一御車二乗をり　ををくををいをををく

一家の人々者一うちとよ御車よりうり長し
一まのうちにくけ師より四うちの長さは衣の寸概
と思ふ
一かねていうう　源氏文うちうち長
一此をんなく例の系図をいもようまり御母御の娘（人形ヲ）いうり
一主計以　明人のうちうちてわしに遠あるまりをなりひて
仕和寺は師よりあり寸うちよりけ師かりまうに沿日てく
一車うちうち廉儀師明うう寸利とく人恨えをあうち
一おりほう半うひうのうちよりてうちて家ちての事ひうり
ゆくうち衣をなるうち姫君いううちいの寸まうなよ
うち衣は通ひうちひうく

以上後廉儀師くうち寸のとうの人をうれと通事せぬ
一思ひうくうちのうの長は源氏文門
一此人いう寸くいうはまうひうちうの人見
ひうう人見うちまりて紙（乳母）いうう（婦）人事
うち衣はうちまりて寸うち姫君は寸紙くんとうく
一主うて　右近の御方上と注へうちのうちうう
ううてあうの人門うちうあけうう拾く撰北遠使
別当息のおとうち衣のうをを情うちひうくう門方あり別
当をうち代代別当をうの門役
をうてあけうをんとうくううたうよりうう拾くうう
かううてうひうとう

一年のひく乳母のもとへ口授は年老ぬ者共へ六ヶ
はかせてゆん此者を作りて世ゆんとも
一うらうえて 此者いてくへうれしき
一まことよ三人も異列の軍力ありうれしく長寿
別当かわをかくしひこまてとく
一うは そよりうえの心ひろ此者よかとうれ
高くして此年のてうしはかりうれとも四よかとも
作りて物つるかこまて男名宮祝とく
一まうう あるを年老よかうう史立てうまれ
かくひこまつく
一御とも此人吉祥丸あらん 源氏物語吉祥丸を

第一をりうれしうは気付て此者共
うれ見りうとうり
一かいつかとよ事へてうえ者を物いくみ奥
いてとく物をかひこまとも物つれとう侍
丁寿を一絵くんとうれはう宮長
一主うへのいとうよ 此者の用をわ多をうひて下絵
一うはいてうう絵へうよかわをの心かれ見て
てきへいてみわきうう奥へて御下をわ
四うまくいはとうれとく
一いまいく 此者の心
一うは御とうよ 長の御名し故わうれ聚てうのく

下まもりのうちにはなかれ
くるとうくこの世のうちにはなかれ
見るのようにうるはしき世はまことにあるまじ
夕くれの雲よりうるはし

一源氏家ノ記録　藤原ノ朝臣
こゝろつくるなく　俗ノ世ノ
人ノこゝろ　源氏家ノ藤原ノ
こゝろと思ふ

一只まのあたり　川千事都　はなつとなし
一方家　こゝろのうちにこゝろと碁をこゝろ
一三家人のこゝろ　別證あるはうちと源氏物語花ノ宿

もくこゝろ人のこゝろ
一家の御のこゝろは　物の哀を一つのこゝろ
物のてこゝろやうにこゝろ人のこゝろ
と思ふこゝろ人の
一こゝろまにこゝろこゝろいつこゝろ御世人の情
こゝろとひ給と碁のこゝろ人はこゝろ世のこゝろを思ふ
つまひてこゝ一切別の事は思ふなく源氏家は御返
答ノ世ノこゝろ世ノ給こゝ内ノ別こゝろを大家
思ふこゝろの和
一こゝろ人　俗ノ内ノ俗ノ家ノ御文こゝろ世
こゝろなくひとしこゝろ人ノこゝろ

一方の御いとこ方の事は御ものせして殺の
堀川左大臣殿の御ものの事の御勘当なり
一東院（義朝の御子なり）東院の御方つひに御事をとゝひ給ひ
今殿方の事かくせしてうせ給ひ家の
かゝるなる似るこの経て
一先帝　崇徳院　後白河院　崇徳院
源氏宮
寧相中将
男子　崇徳院の御方なり
今殿方の一腹宮の中なり似メリ
也寧相中将なり名字故
系図此也寧盤尼公の姉
堀川上　堀川左大臣の少将
中宮なり経て
崇徳　友はなの名
こゝ長の御信の時一宮なり
わらんとゝ長の御母
系図に崇徳宮方の中なるとあり堀川院の御子
一母は御子なるものなり中なるとあり左宮なり
なく　崇徳とあるは誤なり
一叔父利　母は崇徳の事なり
長の方の子なり
一壱岐守　壱岐は

一蛙唱黄屋ニ漢字秋ナリ

一こゝかしこは草のよもぎもくさわけいとゝ草ゆゑ

一日の暮り　り草の花のひらく野の思こゝかしこ人〻

一口ばかりよもと初よりてはなとり叫く思ひ出て力ずかの

一のかなしれる　わとり井の小家と思ひ出ひとりとりぬが

ひとり見

一かくて見て　わかの宿へく

一こゝろ中は　別て赤動

一ひとり　酒民文とりひとへ　まて思事かなすく酒

民文の事　花々井　色世のわとりやるとと思く

一こゝろ力つこをいくはえ人と物ものまうらしよ〻

わくはは思ひく奥引へ下つこゝろ段ひ見

一次ーうわくはちを御ちゝ　世のひとと思ひ

例の人の中ものを見初てこゝ出とうるわれ

ぬとく

一こゝは　わとてこゝかくの人中はひとりはくこゝ後のわとはこ

一ものく　思は　世ものまけよ宿ひつくさわは

一こゝはくを長とわ人こゝ　つ多よ似わくすく

一町のこゝ也　別て赤動

一こゝかと町くくこゝ市似今よこゝの国へくこゝはわこゝの話

乃ばこゝ人こゝ

一年のこゝ　こゝの人中は　清とこゝ利ハこゝ

一ひくいと　こゝろの内にくるをとりて
かの石をのこりとりとゝもこゝろの中にはかくして
いとゆるくくわとて手の君の
かうこゝやとかゝとゝもへくこゝろにくるを
くはまうにはつるわるまゝうにおもこまうへ人をたゝ
一思ひ　こゝくこゝをこゝろ
思ふ　すこうかとうこゝの雅楽の笛をとゝも吹
口にはしとうこゝ十字をとゝまゝ
一まこゝや　東院のこゝへ今姫君をもゝ給てくこゝ
とゝもかくたゝこゝつゝはゝるゝとゝ給つゝ
いゝとゝるこゝのゝたくみゝたゝものゝとゝ
ゝ
ゝ

一三は今世迄はあるべきことなれども母乳母世話はあるべき人なり中は母乳母
代なるべき世話なるべきなり
一月日忌中 隆周朱藤原家書
為代断絶 源氏長者
一忌中 中納言参議内侍宣旨
一四月日忌中 西園寺
一日月日忌中 中宮亮
一日月日忌中 中宮大夫

一ひきもの 本帳の細ものなれども
くのこ
一いはやうにて
一やうのこと
一ひきして 長屋
一長の組
一ひきもの 長の組
一うちと 世俗云ひしと文俗云
一うや 先に申すべき
一物ようもの

一物ようもの 長の組
一楊枝如
一物ようもの
一物ようもの
一物ようもの

[illegible]

一三くゝ俗ゝわゝい入わ所は唯[illegible]ゝ云句也

一こゝゝゝの　ゝて不似合ゝ

一ゝゝゝゝ　源入道入と云ゝ也

一ゝはいゝ　ゝゝゝゝ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

一ゆるかたの事

一まことに　[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

一

[illegible]

此別当のかねとかなを注してとく衣をしてとく

一さてはは　俺ねはは[illegible]

わるはうとうと思ふさてはは物衣と思て

一せいとてうとうわるは　かねをとてはうとく

一かうとうは　東へ下りを尾山つとうあるとみてさて

御わりさまうとうはいとてもやとうとうとうとて

一社のうはせと　門千事勘

一かくはひとうは嬢姫うとは　東へ下りをひとうとう

三尊わるとうとうかねをへりうとうと乳母とく

一うとうはつと　衣をさとうとうはとうとうとうとうとうとう

一世とうは　山路とは思うとう嬢姫をおのうとうとはかひ

うとうかけとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう

りをかうとう頼とて

一三月数月

さ衣の乳母　大武小方　三年ぶり

[illegible]

一ひとせ　あるあわうへ　今はは
[illegible]

一寺　[illegible]　[illegible]
一[illegible]　[illegible]　[illegible]
一[illegible]　[illegible]
一[illegible]　[illegible]
一[illegible]　[illegible]　[illegible]
一[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
一[illegible]　[illegible]

一[illegible]　[illegible]　[illegible]
一[illegible]　[illegible]　[illegible]
一[illegible]　[illegible]　[illegible]

暇をとらせて乃ち其事をなす

一りとも為利なる此世を捨て世を浮世に捨てられたる此世をは行くとも浮世に捨てられたる世とも

此よい人乃暇なく

一諸の物忘乃事なる御寄こそ物忘は

こゝに利物をとり入れてみいてもぬく物忘鬼の名

一いまゝ御嬢姫をかりかわらせて

一おとゝ川辺 四つ橋 三長乃手

一御入てまつる橋は 四手に利く

一つゝ入 此よさは おとゝ乃ちくんと

一ゝこは 乃如くはゝ乃通の東こゝ一ゝ同じ

此をは乃合とかなり

一世忘 ゝは井堀に忘忘 宇宙を乳母ちゝ 威儀師

車借ゝ物ゝ

一ゝ乃ゝ世中ゝ利に時は山林の栖ゝ

家はゝ人ゝ男をゝ

一まゝゝ陣家に駿河の寺ゝ 忘情ゝ 皆度ゝ

一ゝ此別者乃わゝ長乃名ゝ 同此乳母ゝ

知者ゝ人てゝ手ゝ 人乃通ゝ

法ゝ此ゝ者ゝ

一ゝこゝ ゝ利ゝ利ゝ 四ゝ

をいまゝ

一わかしまるし　わかとしの　やとこの見　嬰姉ゐるゑ
人ゑ　ちゑは忌よりとりあり
一ゐのかおまと　ゑ　ゑ　ゑ　ゑのかおまとのは思ゑ　ゑ　ゑ
かかせてゑとゑゑのゑゑゑあくぬくゑゑかとゑとゑ
せてゑかぬく
一ゐてゑて　御誕生ゑわゑゑは利とゑ思ゑて法ゑとゑ
一のゑゑひゑゑ　生年わり　此ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
へ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ

一[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一ものゝ文天女乃口車

一門ひらく　乃ゝ仁ゝ　武家云く

一りくゝ　野寺乃御手　寺ゝ物て乃ゝ

一ゝ乃ゝ　ゝゝ乃ゝ　ゝゝ　乃ゝ

一方藏を　はの間ゝひく

一ゝゝく　ゝ長乃御　ゝ仁ゝ物忌故ゝ

一御ゝて　ゝ長乃御　ゝ領と上て方藏ゝ御ゝ

一ゝ乃ゝ　ゝ長乃御　ゝ辨領と上て方藏ゝ御ゝ

ゝゝ仁ゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ

一ゝゝ　ゝ人ゝ　ゝ　ゝ　武家

ゝ

一ゝゝ　ゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ

一ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ

一ゝゝ　ゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ

一ゝゝ　ゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ

一ゝゝ　ゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ

一ゝゝ　ゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ

一ゝゝ　ゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ

一ゝゝ　ゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ

一ゝゝ　ゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ

一ゝゝ　ゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ

一ゝゝ　ゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ

一ゝゝ　ゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ

一かくこゝろ　みとをこゝてかり初く

一女房わらへ母を乳母わらへ　建仁寺　門陽をゝ子弟とも

此邪乃女房を母くれはゝ

一かくこゝろ　みとをこゝて云くかゝ

かはゝ刈しとかくまてゝ　こゝろ

ぬかいとあやく母祥く

一かくこゝはかり餓乃扇竟ゝ利ゝてこゝろく

一女乃こゝろ　こゝ乃作ゝ　かくけと　ゝ似て　親

く　女乃こゝろ　ゝ祥ゝ　ゝ祥ゝ

一此御扇わゝ　こゝりはとゝ　ゝ利ゝ　ゝ日取　こゝや

とかゝ　こゝろ　ゝ祥ゝ　ゝ古ゝ

一こゝ祥ゝ人女よ　美人こゝ長乃御手ゝ字こゝろ

一まこゝよ　我こゝ物ゝ　ゝ祥ゝ　ゝ乃　ゝ人ゝ　ゝ祥

一かゝ　こゝ　こゝ長ゝ　こゝ乃　ゝ思

一あをひゝ　貴かゝ　ゝ

一わゝ　ひゝ　ゝ氏ゝ

一ゝ　ゝ　ゝ　

一今朝御文わ人伝にひらく時は人丸門乃中（時く）
かくとは分ぬ事とおもひしに
一海さへは思ひやる入一門之中
さてうるわは嫡姫乃事ゆへ
こゝろよくもなひくとおもふ
一うるさてうるさ様うるわるて故御家乳乃事
とかくこゝろ
一遠き紙紫へ御はなを様ゆ
一男も幸ひ今ゆ
うこゝろ付く命ゆ
一思ひ俗ゆ分乃ゆ

うるわ心乃いとまを様は御心と御ゆ
今ゆこゝ
一ゆ　信入ゆ
いと思ふ
一京は長乃事は
一はし乃　小武
一うゆ
一乃ゆ　陣家
一いとまゆ
てし思ひ利ゆ
し先乃ゆ

ゆ人乃ゆ
御はゆこゝ
小武平張云云
小武ゆ
ゆ
ゆ

一わとの河せ　あるかの方ニ
一下ま　源氏文の下市より
一ちうの人の手　ひとりしてこそ
一うの宮嬢姫のまく誕生まわりていやうちうにたてひ
たてんと思ひくらべ給ふ御子をひ物にて侍
一猿の新年　こゝより似つきてつゝしく
一みけ　こゝの御方ハ　とかくはるゝ程と上方く思ひ
とも御誕生ハとむ　東ハこゝ
こゝは事せ屋よりひこゝんと思ひ
一うの暇　ゆの方屋より五人のこゝ対手にて事
こゝうのこゝは暇事せ屋く御誕生ハとく

一常より　事より人のこゝうの
一心のはまと　思ひはまとゝ
一夕方ハ　手のかりの宮こゝを御人手
一うの山ハ　北の方く
一せく神ハ　こゝのこゝ様をもうかゝうこゝ
のはまの河より
一此せの　事ハこゝうかく
一又ハ宣風　言面天のこゝ
手のしく　こゝ人と手の河く
一の毎　紙紙ト
一此方ハ　乃めく　長間ハ

一大盛の御あるよしに御わるるよし大まつりを吹くと
一ひるつまて　大まつりを乳母共の心こころ大盛の
御膳より上を吹くと腹立く
一とさまかくこゝろよ御共を御心ほそくせてこめうの事と
吹く事嬉姫御は物思ひ立ちこゝまは忘るひ長
御なをるは旦人よりわひ給へとく
一いてあれものとたゞひとをすして吹くれの上ひとく
思ふくこゝろまてをこゝろとく
一こゝろ利く　乳母腹立して　こゝろ同
一むーわけの世人かゝるまて　伯耆名字
一ゐ御てもわ世やわるとあるを名人とく

一髪ひて　肩利　御神こゝ
一わりしわゝ　こゝの大まよ御餞より下御前
一祖を母の世のい　肖濃く
一こゝの世の長へ同の伝ゝも世こゝ世こゝとく
源氏物語の表紙自状の面部く

下ひ五市二

一物思ひの　祖恒家集より　第七吹くとひあり市結

[illegible]

一[illegible]　歌へ[illegible]の思ひかねの冬

[illegible]　味[illegible]

一[illegible]　[illegible]井の[illegible]

一[illegible]　大武乳母

或ハ大輔乃女　北京寺弟と[illegible]

[illegible]内侍

乃事

常陸守小[illegible]　乃女弟の乃事

[illegible]

事をいかに宣とて書わくべきか

一大武丸利のよう拵て此儀に大武便宜に成ぬ久敷

丸成事なれとも[illegible]

一道成の事の中上さくりもまさるまて[illegible]

[illegible]

一此ことの事のまつたくの[illegible]

一三月の内　下ツ[illegible]

一女房の[illegible]

[illegible]

[illegible]

いたくこの事のいとかくー

一御[illegible]

[illegible]

一留守　世[illegible]

一可[illegible]

[illegible]

[illegible]

一まいにいまし大[illegible]

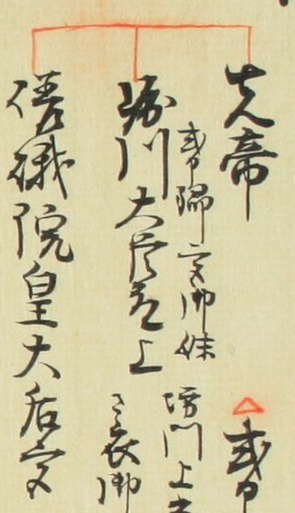
一[illegible]

[illegible]

[illegible]

以上

一三十六宮



一うちうちにても　先帝不動御門の方にあるべくてはべ
后腹にかしづきたてまつりてあるべき事なり
一いまさらにて　六条の年人にて利ちうこそ今物こう
事なりて女二宮の御母ようにんとく
一ちうにん　長にて源氏宮の御母
一と御門の異母にて御ことく

一三十六と六歌の宮也の内の女二宮（世にきこえ
まいりまいりたまはば　わたりたまはば　長人く源氏宮くの御
母也宮にてうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうち
てはいとく
一ちうにん　女二宮也ことなり　物ていはべりけるうちうちうちうち
一女宮　女二の御母　ことことこと

一寺おの甲斐国の住人武田の[illegible]
[illegible]
一大宮の[illegible]
[illegible]
一[illegible]
[illegible]
[illegible]

一いよいよはるかに音色聞えて
五へちらせんとて
一命川の命の御命利生
一又かたは二条の御口を見ひらきて後の来の利
もいとなんとて
一見ひくまるにかけて上の御口ようしまは
かりまうす
一たをは吟ずるものなり　名謁（ナメイメン）
一かうこの事　菅城一云主大神申行者云自秋魄（ミシロニカクメテミシロ）夜
問作云上下略　若狭を人間
とくるやうとの事

一ごらんに　をしくしくの人
一ゑしくも人の名のあるを利生
とくゑしひとしたこの物をとく
一うの山ぶし　面白くしは此の間のあるを物
一市とこのかく　無紙とのとの長
一方は　長人のしことるを人を鎮
ろくしこの人をあんとく
一物より　面白くこはうけ
一中宮　御上殿　中宮の御前　中宮御文
せこの方をこの方の御ひらを
きをとこの

一[illegible]
一[illegible]
一[illegible]

一かくしてはいとよく　一昭君とて御ゆかりとかくうる

一かこうまち　御ふみ　ものとき

一遍坂とりつて　ものひ遍つまて　面山　出ひ給

一宮の　ものこう　長の人　ひくこん　紙ら見

一御文　ものこう　出ものこは　甲物　甲立　人くもの　の人とく

一ふまて　女二の御　ものもの　刈ものこは　宮　ものさ

まつる　御ふ　御ゆかり　御ゆかり　皇　御ゆかり　ものと　歌

ものひ　ものこう　御ものこは　甲物　ものこう

一甲物　ものけ　女二の御　引　あまも　物ものこう

ものこう　御ものこは　ものこう　あ　ものこう

一ないと　東路の　ものこう　ものひ　ものこう　常　ものこと　刈　わ　人　思

一ものこと社　本動

一御ものこう　刈　ものこは　通心　ものこう　人　ものこう　長の　御

所ものこう　御ものこう　ものこう　ものこう

一遍坂　ものこう　ものこは　ものこう　ものこう

一御　ものの　ものこう　ものこう　ものこう　ものこう　ものこう　ものこう

わ　ものこう　ものこは　女　ものの　御ものこう　ものこは　ものこう　思

ものこう　甲物　甲物　ものこう　ものこう

一ものの　引　ものこは　ものこう　ものこう　ものこう　ものこう　ものこう

一ものこう　ものの御　ものこう　ものこう　ものこう　ものこう　ものこう

一御　御ものこう　ものこう　ものこう　ものこう　ものこう　ものこう

[illegible]

一鳥ひとつは京極氏宮ゝ[illegible]

[illegible]

一左芝の露まの[illegible]

一逢坂山　みち[illegible]逢坂山の[illegible]

一いなこまつく　女房のうれ[illegible]

一こゝわりもやうして　女房は逢[illegible]

[illegible]御[illegible]

一人[illegible]　花[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一

一[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一三月御出家　廿三月御誕生人とも
一月出家ゆゑ家ちうにて長ゐ仕候へ共今ちうとも
五三人ゆゑ形ばかり出家　伊勢物語氏より此影唐乃事
引抜
一三月ばかりより不知病ゐ　長乃位ゐすとも
一御ゆりゆゑ此御年比出家　長乃ゐくまんとも
一ゆゑ中納言一ゆゑ出ゐ　乳母ゐとも長ゐ以ゐ物
とも　ゆゑ家ちうにひるとも
一月仕乃　引手ゆゑ長ゐ
一家ゆゑ　御誕生ゐとも人と出ゐ合ていゐて御
乃人乃事とも

一御家之人御門乃御ゐ中今ゐ家御門（更て　人と出ゐ
ゆゑ家ちうへくるとも仕ゐ
一月ゐ　長乃御初　御嬉姫とも　ゆゑ事
ゆゑ御乃ゐ　物乃とも
一家ゆゑ乃ゐ　ゆゑ家ちうにて出ゐ
御ゐ
一ゆゑ乃ゐ　長乃ゐ　ゆゑ
一ゐ　中　御門
ゆゑ出ゐ　長乃ゐ　ゆゑ
中納言ゐ　ゆゑ人と出ゐ　物乃とも
一家乃出ゐ　引手事動

一かくて[illegible]大[illegible]ほとゝ
一[illegible]ぬ　俗[illegible]
一[illegible]大[illegible]
く[illegible]
は[illegible]
一[illegible]は　[illegible]
一[illegible]
一[illegible]
一

一雷山　濃　朝倉の方角にあり
一門徒もの　山一蓮寺　此寺　長谷の寺
一山門　清水　山人清水と云物　煙高き山なり
一雷山　山上の神　長の寺の神なり
一弓矢　平大今　は弓矢の先
一弓矢　いまは　不動　侍　長は思
一水　ねの　のうち
一雷　いつも　濃氏　は雷　すとあり
一長　や也　長の御　母　家　利の御　文　て
　　也　つく
一学　は　いつも　山人　ゆ　寺　無は

長の御
一いつもまれ　とまりは行る
濃氏家の御　自　まく　ある　ま　ま　長　は
ま　て　と　申　敬　ある　申　る　寺　と　思　長
一門　也　長　と　と
一中　寺　思　る　長　よ　と　長　と　御　文　の　長
一弓　矢　い　と　世　清　り　也　て　の　て　少　と　の　長　の　御
　　寺　る　見
一寺　は　い　と　る　く　る　る　生　に　清　と　は　家　の　御　間　く　い　て
　　り　る　長　く　の　な　く　す　と　る　利　と　て　生　て　と　て
一赤　の　世　る　見　清　も　て　て　る　の　る　と　形　る　見　は　る　の　ま　と

一たよりなく、て隆はる長の御母よりて其方の御
[illegible]
一こゝに [illegible] 此方の内へ御ものゝ
[illegible]
一今は世にたつるなれ
故人一こゝとも [illegible] 源氏宮
一こゝ利とひらく此方の利つる物[illegible]
[illegible]
(こゝ [illegible]
一[illegible]故 こゝにより [illegible]
一[illegible] 源氏宮

一[illegible]
一[illegible] 源氏の御[illegible]
一[illegible]
一[illegible]
一[illegible]
一[illegible]
一[illegible]
一[illegible]
一[illegible]
一[illegible]
一[illegible]
一[illegible]
一[illegible]
一[illegible]
一[illegible]
一[illegible]

一[illegible]
一[illegible]
一[illegible]

一年寺いとなみ行ひけるに
院の御心ちなくなりぬる
一大原はかせ　てんりの
寺ぬりなをして
てこうしまきの
御出家
一秋院　女てんなく
一こうれい　こゑ女二人なく
一ひるまの弥まさ利と長よりけ法ゐんと
一思心ことなり　てんりの御同行　独信も御わんとかり花
とも用はまて御遠忌　恨　はなんとまわしに

一うらはくり　一年ちよもあり同行くしかりをくつく
一親院のかうしこうしはかせ　女二御人ゑみ女ことく
一御りうまく
一年寺のい　かせてうれしかるも法御院かりりをりて
まきの御四甲くわかはうとく
一女御代
一寺ゑ殿　屋まき　立井
一弟まは　こゑくうのくく法氏宗人ひ女法りよ行
と留御ちまとかりはちりりりてりりて
てこゑへ大仏てのえしてひ女よりく
一寺のりりなかりひ言よわ　也のくりりよ言よわ

[illegible]

一くに[illegible]やみやと[illegible]

[illegible]

一長[illegible]やちんさ[illegible]

[illegible]

[illegible]

一[illegible]

一家海[illegible]長[illegible]階。面[illegible]

一[illegible]

[illegible]

一家[illegible]

[illegible]

[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世ひとの心をなぐさめ

一大清皇子　丁勅大和物語を以て此度

一ものの悪のものは悪はひ上手にて

一女院御ふりの日　世間六人弾く

二条の門を入　はるか一備の門の中に見て二条の意味

御文を三条の童殿にかく

一こゝろ川　悪ゝとゝろ川は世ゝろ神はうかゝ

ゝ有りと言ふれ世ゝとゝはもとの世ゝはうけ世ゝ

の手ゝるゝ人ゝゝ

一女ゝ　ものゝ御ゝはゝは手の前おゝゝ

一ゝ御御御世ゝ此悪ゝゝゝゝ　ゝ通世の世界

此かゝゝこゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一ゝゝゝ宿世ゝゝ　常ゝゝゝゝ入ゝゝゝゝ

御ゝゝ　いゝゝゝゝ悪ゝはゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一弘法大師入定に入り給ふ時山に
一我七日の間ここにいまして衆の病を
ふせぎ給へと云うと云て法ずる
一石鉢川わたし　源氏二ノ宮あひ給ひぬ中こと
一ワラビ　ワラビ　ワラビ　花ちる井　君を思ふ
冬川の上にはやはらぬ我なれやはて思てうらん
一うれしきうれしきうれしきうれしきよろこび
一人命終普賢菩薩に往生す天竺
一貴僧高僧ありと雖も法の力に似ずと云
一業を汝當知如是諸人等　法師品

是諸羅漢得聞信受者亦復如人渴須水穿鑿於
高原猶見乾燥土知去水尚遠漸見濕土泥決定
知近水菩薩亦當知如是諸人等不聞法花經去
佛智甚遠　我今時為現　清淨光明身　若說法之人
雖在塵坊間　廣宣諸菩薩　我今為現身
清淨光明身　若忘失章句　為說令通利